

前回の振り返り【指摘事項と対応表】

No	協議会での指摘内容	協議会における回答	対応方針・結果
議事1 本事業と協議会の設立について			
1	風力の導入ポテンシャルは示されており、風力をメインにゾーニングをしていくように見えるが、太陽光と中小水力の検討はどの程度力を入れていくのか（浦委員）	太陽光と中小水力も今後ポテンシャルを整理する。太陽光は市の東側の未利用地等、中小水力は山間部の小川にポテンシャルがあると考えている。今後図化して協議会で示す。	・風力と同様、太陽光と小水力についてもゾーニングを行う。太陽光、小水力の導入ポテンシャルについて整理した。
議事2 事業概要とスケジュールについて			
2	風況観測塔の設置は、観測地点で事業を実施するなどの誤解を招く可能性があるため、観測の趣旨を地域住民と認識合わせが重要と考えている。（浦委員）	—	周辺住民に対しては、今回は久慈市の調査業務において、市内の代表的な地点における風のデータを取得する事が目的であると周知する。事業に直接つながるものと誤解されないように注意する。
3	太陽光発電について森林を伐採する場合は、土地の安定性を留意していただきたい。（横内委員）	太陽光については複雑地形、急傾斜地は除く形で検討する。	左記のとおり
4	風車の大型化により最大高さが200mを超える陸上風車も出てきているので、景観としての影響を検討する際にご留意いただきたい。（横内委員）	風車の大型化にも留意しながら景観調査を進める。	左記のとおり
5	地域住民との合意形成において、初回の住民説明会は丁寧に説明を行う必要がある。地権者は賛成でも周辺住民が反対するケースがある。今後の事業を円滑に進めるためにも、地権者だけでなく地域住民の意向も反映する必要があり、合意形成範囲は検討する必要がある。（三宅委員、澤口委員）	3年目に地域住民との合意形成を行う予定であり、今後の協議会でご意見いただきたい。	・久慈市全域をゾーニング対象としており、様々な立場の方々の意見等を反映することを目指す。 ・アンケート等も含め、意見聴取の方法については今後検討する。
議事3 事業進捗と今後の進捗について			
6	A、B、Cエリア設定が調査の為のエリア設定だという事が分かりにくいので、久慈市全域がゾーニングの検討対象であるとわかるよう、今後住民向けに説明する時はご注意ください。（浦委員）	ゾーニングの検討対象は久慈市全域である。（国際	・A・B・Cエリアについて、「基礎的調査実施エリア」等、事業を検討しているエリアではなく、久慈市全体のゾーニングのための調査対象エリアであることを誤解ないように示す説明を行う。
7	今後の促進エリアの設定については行政の土地を対象とするのか。民有地を対象に合意形成を進めていくのは大変である。その辺りの進め方のイメージを協議会で説明していただきたい。（浦委員）	—	・久慈市全域をゾーニング対象としており、実際の事業も民有地を利用する可能性があるため、民有地も対象とする。
8	Cエリアの西側は、調査・観測に適していないが、導入ポテンシャルは高いため、今後のゾーニングでの扱いは考慮する必要がある。（浦委員）	エリア設定の方法は委員の意見をいただきながら進めていきたい。	・久慈市全域をゾーニング対象としており、ご指摘の箇所についても、風力発電のポテンシャルとともに土地利用規制、環境影響等を考

No	協議会での指摘内容	協議会における回答	対応方針・結果
			慮し評価(ゾーニング)を行う。
9	3年間で、どこまで詳細に風車の位置規模を示すのか。今回の成果を配慮書段階に代わるものと位置付けるのであれば、事業の位置や規模、配置や構造までを複数検討したうえで、各々の環境影響を比較検討の上、最適なものを選んでいくが。今回はエリア設定までか、それとも具体的な配置を複数案示すのか。(阿部委員)	具体的な配置の検討までは想定していない。促進エリアになりうるエリアの設定までである。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーニングの結果をもって計画段階配慮書に相当する整理をするに当たり、重大な環境影響の比較が可能となるような、ゾーンの設定及び留意事項等の整理を想定しております。 ※計画段階配慮書では、計画を複数案想定し重大な環境影響の比較を行うものですが、ゾーン毎の環境影響の比較を本事業の成果としてイメージしています。
10	大雑把なエリア設定では総論賛成でも、具体的な風車の見える位置によって住民からの反対運動が起きる。計画配慮段階で本来であれば検討すべきであり、3年目の成果以降に事業計画が頓挫してしまわないか危惧している。(阿部委員)	景観調査においても住民に配慮した形で進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、再生可能エネルギー導入の規模、適切な立地のために検討を行うものと理解しております。景観については可視・不可視、見え方(圧迫感、感じ方の変化等)等を整理します。具体的な風車の位置を仮に設定するかどうかは、今後検討してまいります。 ※ゾーニングの位置付けの確認が必要。今後、事業者が計画・アセスを行う際、明らかに不適切な立地、配慮すべき環境要素の情報不足(住民等の意向なども含めて)により環境紛争が発生することの抑制が目的と考える。 ※個別の環境要素に対する事業による影響については、事業段階(方法書、準備書段階)で事業計画と照らし合わせた予測・評価、意見聴取が必要と考える。
11	観測塔が60m、リーポスのデータは80mを想定しているが、風車を設置した場合は80m以上のハブ高さとなるため、風況調査結果の活用方法は重要と考えられる。(本田座長)	—	<ul style="list-style-type: none"> ・REPOSの結果は、風況の良い箇所を相対的かつ面的に示すものであり、実際の風車により想定される発電量等については風況調査の結果の活用も検討する。
12	観測結果を基にリーポスの結果との整合を確認の上、他地点への推定にあたっては、慎重に検討を進める必要がある。風況については、地元の方の意見も参考とした方が良い。(本田座長)	承知した。	<ul style="list-style-type: none"> ・観測結果とREPOSの結果の整合については慎重に検討の上、他地点への推定を行う。また、地元の意見については関係者へのヒアリング等を行う事を検討する。
13	現在調査対象としている鳥類以外の地域として重要としている鳥類は、地元のヒアリングの中で調査が必要。(浦委員)	—	<ul style="list-style-type: none"> ・由井正敏氏(東北地域環境計画研究会)及び ・地元の鳥類愛好家として類瀬洋子氏にヒアリングを実施した。 ・久慈市で特に注目されている種はないが、ク

No	協議会での指摘内容	協議会における回答	対応方針・結果
			マタカは重要種であり、久慈市内でも生息が確認されているため、注意して調査を実施するよう助言を頂いた。
14	渡り鳥の調査時期が十分か、ヒアリングで不足がないか確認が必要。(浦委員)	—	<ul style="list-style-type: none"> ・由井正敏氏（東北地域環境計画研究会）にヒアリングを行い、調査計画について意見を伺い、内容について了承いただいた。 ・本調査はあくまで補足的な位置づけであり、全ての渡りの時期を網羅させることは難しいため、今後事業化した際には、詳細な調査を環境影響評価で実施するよう『協議会の提言』としてとりまとめ、次事業者に引き継ぐことを共有した。
15	イヌワシがいると想定した場合、釜石市で8月に幼鳥によるバードストライクが発生しており情報収集し把握する必要がある。渡り鳥の追加調査に加えて、幼鳥が行動域を広げる時期に調査を追加してはどうか。(浦委員)	—	<ul style="list-style-type: none"> ・由井正敏氏（東北地域環境計画研究会）にヒアリングを行い、久慈市及びその周辺のイヌワシの生息状況や幼鳥への影響（バードストライク及びそのほかの影響）について情報収集を行った。 ・当該地が行動圏に入るような場合、追加調査の実施について助言をいただいた。 ・釜石市におけるイヌワシのバードストライク例が9月であったことから、9月に調査を実施することです承いただいた。
16	調査時間が8時～16時となっているが、8時より前に活動している可能性があるため、専門家にヒアリングしてはどうか。(浦委員)		<ul style="list-style-type: none"> ・猛禽類調査については、由井正敏氏（東北地域環境計画研究会）にヒアリングを行い、調査時間(8～16時)について意見を伺い、内容について了承いただいた。 ・渡り鳥調査についても、調査時間(日の出～日の入)について了承いただいた。
17	ABCエリアの中で目視できない範囲の検討方法を準備した方が良い。浦委員)		<ul style="list-style-type: none"> ・提示した視野図は視認できる斜面を表現（着色）したものである。上空については広域に見渡せているため、視野図にはその状況を反映した。
18	久慈市の資源マップがあると思うので、その辺りを押さえた方が良い。(三宅委員)	—	<ul style="list-style-type: none"> ・景観資源については、既存資料収集整理を行い、ゾーニングに反映する。